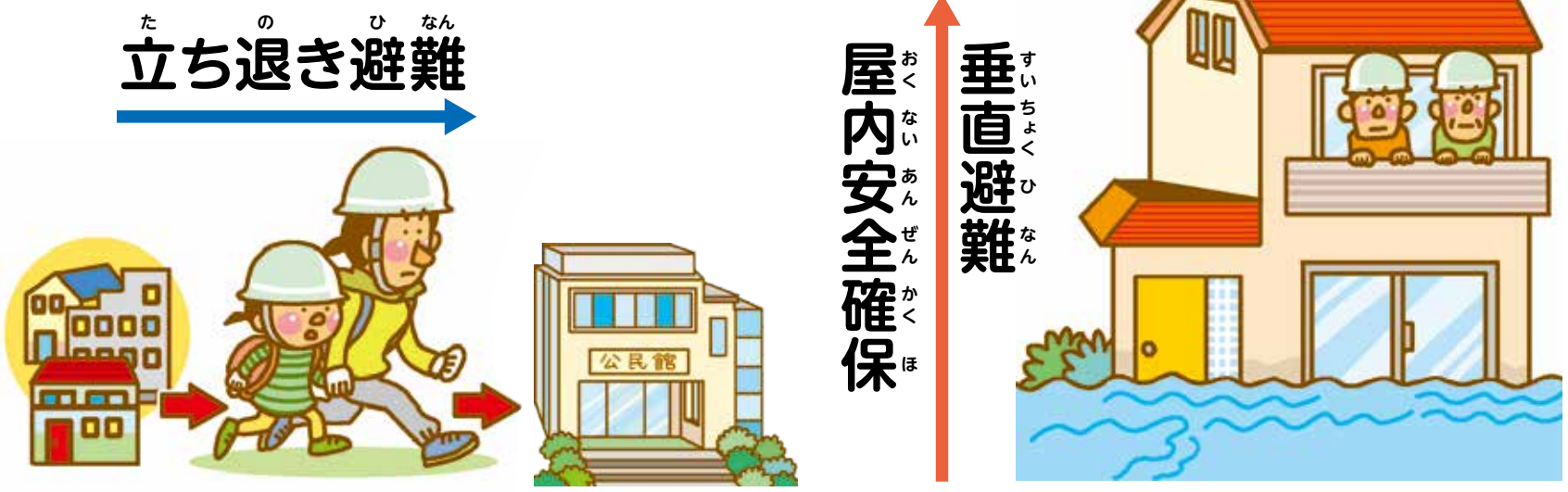
立ち退き避難と屋内安全確保

危険な状況での避難はできるだけ避け、安全の確保を第一に考えます。危険がせまっているときは、指定された避難所への移動（立ち退き避難）だけでなく、近くの安全な建物などへの避難や、屋内のより安全な場所への移動（屋内安全確保）が必要な場合もあります。



屋内安全確保

例えば こんなとき

- 夜間や急激な雨で避難路上の危険箇所がわかりにくい。
- ひざ上まで浸水している（50 センチ以上）。
- 浸水は 20 センチ程度だが、水の流れがはやい。
- 浸水は10 センチ程度だが、用水路などの位置がわからず転落のおそれがある。

外へ出ることは危険です。自宅や近くの建物の2階以上へ緊急的に一時避難し、救助を待つことも対策です。

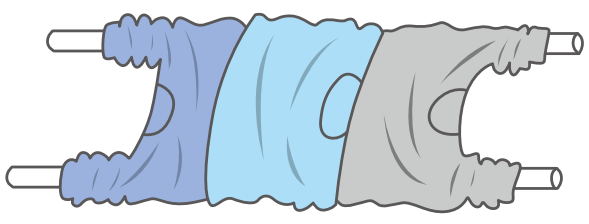
浸水場所は気をつけて

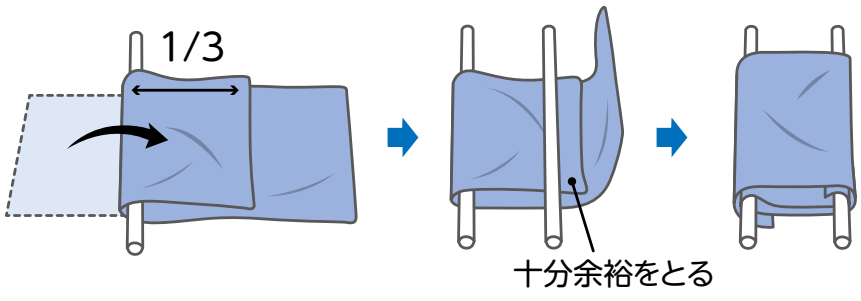
- □ 浸水した箇所がある場合には、長い棒を使って障害物や溝、水路などに十分注意して歩きましょう。
- □ 危険と思ったら、無理な外出はひかえましょう。

おぼえておきたい「簡易担架のつくりかた」

●棒と上着でつくる

物干しざおや鉄パイプなど頑丈な棒2本と、丈夫な上着（トレーナーなど）数着を組み合わる。



●棒と毛布でつくる

頑丈な棒2本と毛布を準備。広げた毛布の3分の1のところに棒を置き、その棒を包むように毛布を折り返す。折り返した毛布のはしに残る棒を置き、その棒を包むように残りの毛布を折り返す。